

第92回麻布獣医学会 一般学術演題6

管内と畜場搬入牛における抗菌性物質検出事例および 薬剤適正使用啓発にむけた協力体制構築について

○神谷 陽介

茨城県県北食肉衛生検査所

【はじめに】

平成26年度から平成28年度にかけて、当所管内Aと畜場の牛保留畜において抗菌性物質が基準値を超えて検出される事例が複数件あった。

再発防止および問題の根本的解決のため、家畜保健衛生所とAと畜場に情報提供を行い、協力体制構築を目指した。

【抗菌性物質基準値超え事例および抗菌性物質の不適正な使用が認められた事例について】

平成26年度から平成28年度の牛保留畜5頭について、精密検査の結果抗菌性物質が基準値を超えて検出された。

また、平成27年度、生体検査時に乳房炎軟膏の過剰投与が判明した牛について、持ち帰りを指示した。

また、平成28年度、敗血症で全部廃棄となった牛について、Aと畜場が当該牛の診療簿を農家から取り寄せたところ、タイロシンの投薬歴があり、休薬期間中の出荷であることが判明した。

【関係機関への情報提供および対応について】

(1) 家畜保健衛生所

各事例の牛農家管轄家畜保健衛生所に情報提供を行い、再発防止に向け家保と当所とで今後の協力体

制構築に向けた対策会議を実施した。また、各事例農家について、家畜保健衛生所が立ち入りし、調査指導を行った。加えて家畜保健衛生所から農家および指示書発行獣医師に対し、薬剤適正使用啓発についてのリーフレットを発行し、注意喚起を行った。

(2) Aと畜場

各事例について情報提供を行い、再発防止を目的に出荷者に対して、休薬期間遵守についての注意書を配付し、出荷牛受入れ確認書を再提出させる、という対応を取った。

以上の対応を行い、以降Aと畜場に出荷された牛について、薬剤の不適正使用が疑われるような事例は発生していない。

【まとめ】

食肉の安全・安心が叫ばれる今般、関係機関と連携して問題に取り組み、真に安全・安心な食肉を提供することは今後消費者から一層期待されることであり、今回関係機関と連携し、問題の根本である農家意識を変えられたのは大きな成果であると考えている。

今後も関係機関と協力し、県内全体の薬剤適正使用啓発に取り組み、安全・安心な食肉を提供できるよう努めていきたい。